

内航船舶輸送統計速報 (令和2年11月分)

1. 概況

総輸送量は、26,910千トン（対前年同月比8.4%減）、13,505百万トンキロ（対前年同月比10.6%減）であり、大型鋼船は17,045千トン（対前年同月比8.1%減）、9,962百万トンキロ（対前年同月比9.4%減）、小型鋼船は8,222千トン（対前年同月比7.2%減）、3,265百万トンキロ（対前年同月比14.4%減）であった。

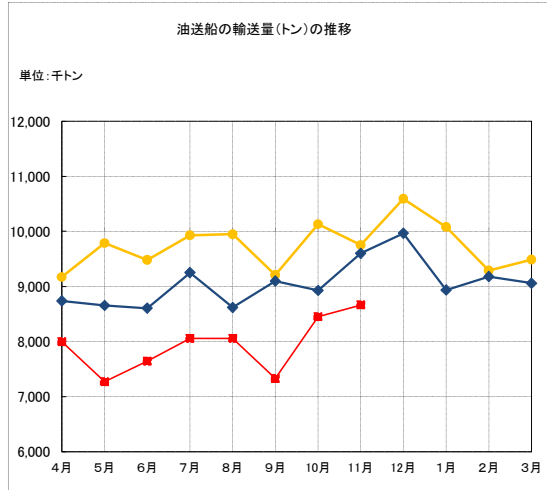
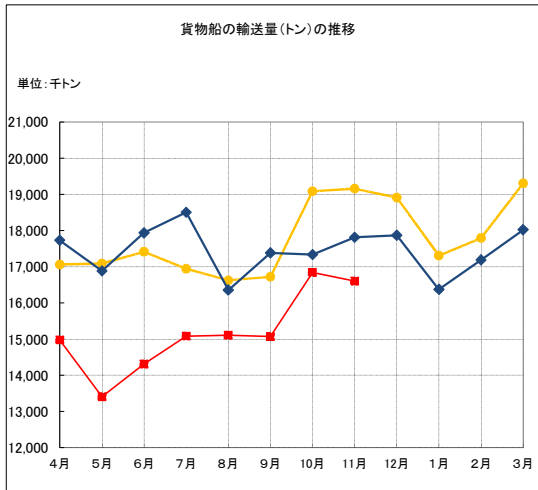
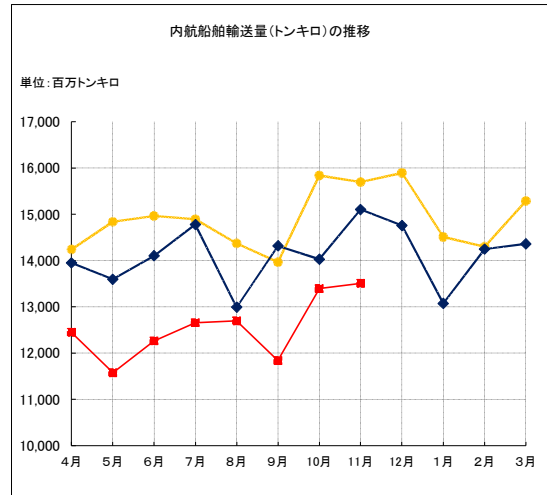
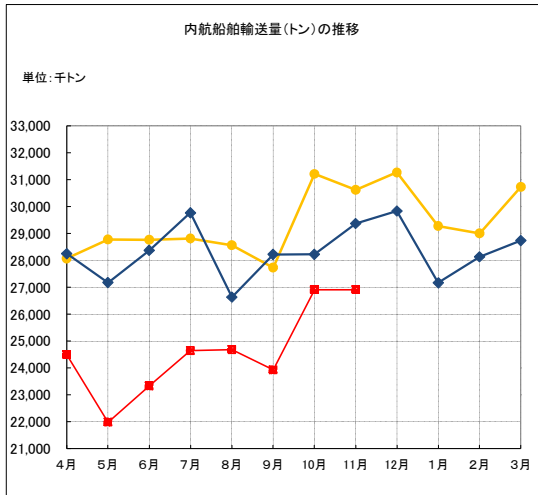
貨物船は16,603千トン（対前年同月比6.8%減）、8,459百万トンキロ（対前年同月比8.2%減）であった。

油送船は8,664千トン（対前年同月比9.8%減）、4,769百万トンキロ（対前年同月比14.7%減）であった。

プッシュャーバージ・台船は1,643千トン（対前年同月比16.0%減）、278百万トンキロ（対前年同月比6.9%減）であった。

2. 用途別輸送実績

項目	トン数 (千トン)	前年同月比 (%)	トンキロ (千トンキロ)	前年同月比 (%)
合計	26,910	91.6	13,505,490	89.4
大型鋼船	17,045	91.9	9,962,371	90.6
小型鋼船	8,222	92.8	3,265,300	85.6
プッシュャーバージ・台船	1,643	84.0	277,819	93.1
貨物船	16,603	93.2	8,459,086	91.8
油送船	8,664	90.2	4,768,585	85.3
プッシュャーバージ・台船	1,643	84.0	277,819	93.1



凡例： ● 平成30年度(2018年度) ◆ 令和元年度(2019年度) ■ 令和2年度(2020年度)

本速報値の総輸送量は、「内航船舶輸送統計調査(基幹統計調査)」の調査対象事業者のうち、一定の期日までに提出のあった事業者の実績を用いて、過去半年分の当該事業者分と全体の輸送量の比率を以て推計した値である。また、全体の輸送量の内訳である用途別については、過去半年分の内訳の比率を用いて按分したものである。

そのため、「内航船舶輸送統計月報」における推計方法とは異なるので留意されたい。なお、確報値は、「内航船舶輸送統計月報」として追って公表する。

お問い合わせ先
 国土交通省総合政策局情報政策課交通経済統計調査室
 TEL: 03-5253-8111 FAX: 03-5253-1567
 担当: 小林、西岡(内線 28-743)